

令和 4 年 4 月

会員 No63 田中 晃

今回、福島県いわき市に行く用があり、宮城県 2 か所、福島県 1 か所の記念館を訪問しました。震災後 11 年が経ち、3. 11 直前でしたが、訪れる人も少なく、風化の兆しも見えました。後半は新聞情報等で「危機管理」の視点で参考になる事例を「個人用」にまとめたものです。

1. 訪問先と概要 令和 4 年 3 月 3 日・4 日

訪問地	内 容	概 要
宮 城 県 名 取市 震 災 復 興 伝 承 館	M9.0 の地震発生 津波:9.09m 15 時 52 分 浸水最大 5.5km 近くに仙台空港	震災前後の閉上の町のジオラマ 元住んでいた人と意見交換 展示スペース、シアタールーム 閉上保育所の奇跡を掲示 (参考資料で細目説明) 土地勘のないのが残念でした
宮 城 県 山 元町 震 災 遺 構 中 浜 小 学 校	震度 6 強 津波 10m	90 名の命を守り抜いた小学校 児童、教職員、保護者が屋根裏 に避難、幸運が重なった 建設時に 2m の嵩上げ 津波高さ 10m の予想通り 地上高 2m+2m の嵩上+1 フロア 4m×2F 第 3 波は 20m 程度だが引き波で相殺されたようだ 受付 2 名、遺構で 2 名の手厚い体制 若い語り部が配置されていました 入館料 一般 400 円
福 島 県 相 馬市 伝 承 鎮 魂 記 念 館	犠牲者 458 名	相馬市の原風景展示コーナー かつての相馬市の姿を知る 写真や説明があった 床面に震災前と震災後の相馬の航空写真、 被災映像コーナー



■感想

- ・訪問地調査個所は、多様な内容と運営があり、内容を確かめ、目的別の訪問が必要と考えます。車両による調査が必須でした。
- ・仙台より北側と岩手県はチャンスあれば参加したい。
- ・「東日本大震災風化防止イベント」が開催され、WEB で各県知事や芸能人の避難地応援があった。主催：東日本大震災復興フォーラム実行委員会



名取の海岸線の様子。左に仙台空港
津波による内湾の出現
常磐線は内陸部に移設済

2. 震災後 11 年が経ち、事実が報道され、見える化されるようになった

(1)各地での避難状況振り返り 別紙参照

- 「釜石の奇跡」は「生き残ったのは本人だけ」もあり、「奇跡」は使わなくなった。
- 想定間違えれば全滅に繋がる事例、幸運に恵まれたものもあった。(中浜小学校)
- 生死を分けた物語が語られるようになった。

直ちに避難、即決断が有効、地域住民からの避難誘導、避難経路の普段からの確認。

マニュアル通りではなく最善の手順で避難、建設時のかさ上げ、避難経路の建設 など。

(2)当時の被災者が 10 年を過ぎて語り部として活動開始

- 被災者が語り部として地元で命の大切さを語ったり、教師になったりしている。
旧大川小学校で生還した元児童が、本音を話す状態になった。
- オンラインによる震災学習、地域間交流が多く始まっている。
企業の参画事例もあり、地域の防災活動とは違う新たな防災教育が始まっている。

(3)ハードの現状

- 津波被災地の防潮堤や高台移転、道路は大方完成している。
- 津波対策の工夫：アクリル板で海が見える。浮力で立つゲート、盛り土と植樹
田老の防潮堤は10mを14.7mに。
- 原子力発電所処理水の海洋放出は住民の理解が得られず、にらみ合い状態。
- 震災伝承施設に遠のく足。復興住宅：増える空き室

(4)ソフトの話題


- 福島第一原子力の帰還困難区域の一部解除が2023年春、宿泊施設の準備中です。
帰宅調査では住民の6割前後が戻らないと決めている。
- 被災地の心のケアと地域コミュニティの再建は課題が山積している。高齢者の孤立化。
- 老老復興、バス路線の減少、コミュニティバス。担い手不足、ボランティアへの期待
- 大船渡の「風の電話」は心の復興。スーパーは住民の命をつなぐ。
- ペットのため避難をあきらめるので対策が必要。
- 津波避難は半数が車避難必要との統計。

(5)今後への期待例

- スマホの活用。自分が助かれば誰かを救うことが出来る。
- ネット利用で被災地応援。
- 協力隊で定住する若者が増えてきた。
- 不漁対策で陸上養殖、水産業はAIで省力化
- ロボットや水素などの最先端・研究施設・工場立地等 などなど

参考事項：3.11 伝承ロード「イラストマップ」の作成：岩手県 18 か所、関連 27 か所、
宮城県 25 か所、関連 31 か所、福島県 11 か所、関連 23 か所

<別紙> 3.11 小学校等の遺構・話題事例

箇所	被災状況	参考になる事例
<p>中浜小学校 福島県山元町</p>	<p>・屋上に避難した90名の児童、教職員、保護者、市職員が生還した 地上2m嵩上げ2m、1階2階各4mで10mの津波に対応 *予定を超える波が来なかった幸運例</p>	<p>・当地区は津波の痕跡や津波石碑あり。 1933年昭和三陸地震は津波2.3m。毎年防災訓練 ・3月9日に地震発生、前日に臨時体制の再確認、 ・屋根裏に避難、床の上で一夜を過ごす ・最寄りの山までは1.2km、20分と時間がかかり、津波到着10分の情報の中で10mの津波高予想で、屋根裏が安全と校長が決断した。 実際は1時間後襲来 ・ブルーシート、非常用毛布で寒さを防いだ。</p>
<p>関上保育所 宮城県名取市</p>	<p>・11人の職員が54人の1~5歳児全員を避難させ、犠牲者は出なかった。 ・平屋建て保育園は津波で建物流出、基礎のみが残った</p>	<p>・地震後、園長が出先から帰ると庭にブルーシートが敷かれ、園児がパジャマ1枚で固まっていた。 ・所長の決断と行動 1. 逃げます。2. 逃げる車を持ってきてください。3. 小学校で会いましょう ・避難場所を内陸部の関上小学校に変更。職員とは避難経路を何度も走り、確認していた。 ・職員の車で裏道の避難経路を渋滞なしで移動。避難所で一夜を過ごす。落ち着かせたので泣く子がいなかった。</p> 
<p>参考 その他の 例</p>	<p>福島県浪江町立諸戸小学校震災遺構 釜石市鶴住居小と釜石東中 *「釜石の奇跡」は「釜石のできごと」に修正 その他の教訓事例の要約 (新聞報道等から列記)</p>	<p>・生徒82名教職員含め95人が1.5kmの大平山に走って避難、低学年や車いすの生徒の避難支援 ・釜石東中生が自主的に避難、地域の住民の声掛けで3階に避難していた小学生と一緒に避難した。最初の避難場所は更に高台に移動、難を逃れた下校した児童は亡くなっている。 ・津波と車の競争、リヤカーの利用等実地の教育 ・気仙沼・震災遺構伝承館：向洋高旧校舎、被災5分後に197名、400mの寺へ、さらに2kmの中学まで避難して全員無事。 ・大船渡市吉浜地区：集団移転で犠牲者1名 ・旧気仙中：高台避難した生徒86名避難 ・旧門脇小：津波火災から避難224名 ・気仙沼市：鉄筋3階建ての外側に個人が螺旋階段、30名が避難 ・大川小遺構：児童74名、教職員10名が犠牲 ・山元町の幼稚園、園児8人と職員1名が犠牲 大津波警報知らず、2台のバスが流された。 ・メイプル館・津波復興記念資料館 関上の記憶 旧関上中学校入口に設置：14名の被害者</p>